

年間報告書

To create "Good Change" for the future of Japan.

2022



Highlights of the year

念願の現地入りから
アクション実行に向けての挑戦！
社会人向け研修拡大中！

民泊本格再開へ！
祝！新拠点誕生！いわてまちユースセンター
チェンジメイカーズカレッジ、国際連携！
SET掲載書籍4冊刊行！
ほか

デザイン/イラスト
渡邊奈緒 宮内航

編集部
荷川取佑太 小林夏菜 水口拓未

監修
三井俊介

Special Thanks

上田彩果 Trine Villemoes 山本晃平
小林敬志 廣瀬太陽 有田麻梨奈
吉原直矢 渡邊拓也 上村徹雄

代表挨拶

三井俊介

特定非営利活動法人 SET 理事長
特定非営利活動法人 高田暮舎 理事
特定非営利活動法人新公益連盟
北海道・東北ブロック共同代表
宮城大学 非常勤講師
一般社団法人
幸せなコミュニティとつながり実践研究所 理事
元陸前高田市議会議員（2015年9月～2019年9月）
地域政党とうほく未来創生副代表
2011年4月6日、陸前高田市への
初めての現地入りの時、広田町と出会う。



より多くの皆様、企業様との連携による社会創造に向けて

今年もコロナの影響を色濃く受けた1年でした。また世界を見渡せば信じられないような戦争が起き、世界的企業の大規模なリストラが起きるなど非常に混迷しています。SETではコロナになってからも、「僕らには希望がある」という強い思いのもと事業を推進してきました。その結果、このコロナ禍にあって、活動領域を広げ、行政の皆さんとの連携を増やし、雇用を増やし、過去最高の売上を記録することができました。

これはひとえに支えてくださる皆様のおかげと、そして共により良い社会、そして生き方を模索し続けてくれている仲間のおかげだと思っています。2022年度はより多くの個人の皆様のお力を貸していただけるよう体制を整えていくことと、より多くの企業様と連携を増やすことで社会的な価値をより提供できる組織体に進化していくことを目指して活動を推進していくたいと思っています。社会は混迷していますが、SETは「希望と勇気」を持って進んでいきたいと思います。ぜひ皆様ご一緒に。

団体紹介



～NPO法人SETとは～

■Mission(どんな社会を夢見るか)

一人一人の「やりたい」を「できた」に変え、日本の未来に対して「Good」な「Change」が起こっている社会を創る

■Vision(そのためにSETは何をするか)

人口が減るからこそ豊かになる
ひとづくり、まちづくり、社会づくり

■SETの沿革

2011年3月11日 東日本大震災発生
2011年3月13日 被災地支援のため任意団体『SET』設立
2013年6月18日 任意団体から「特定非営利活動法人SET」へ
2020年 新型コロナウイルス発生でサポート制度を開始
岩手町で中高生向けキャリア教育事業を開始

2021年 葛巻町でChange Maker Study Program事業を開始
～現在 広田町、陸前高田市全域、岩手県各地で活動
※活動実績などはNPO法人SET HPを参照

■受賞歴

- ◇令和元年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
内閣総理大臣賞受賞（2019）
- ◇第13回 マニフェスト大賞
最優秀シティズンシップ推進賞受賞（2018）
- メディア掲載
 - ◇新聞
東海新報、河北新報、岩手日日、岩手日報、読売新聞 など
 - ◇テレビ
NHK総合、NHK Eテレ、日本テレビ、岩手朝日テレビ など
 - ◇雑誌
TURNS『人と地域が共に成長するコミュニティ』（第一プログレス2020.12）
ソトコト（RR 2018） など
 - ◇書籍掲載
「政策起業家が社会を変える：ソーシャルイノベーションの新たな担い手」
(2022 M.ミントロム著 石田祐 三井俊介訳)
「フォルケホイスコレのすすめ：デンマークの「大人の学校」に学ぶ」
(2022 矢野拓洋 岩田勝太他)
「ウェルビーイング」 (2022 前野隆司・前野マドカ著)

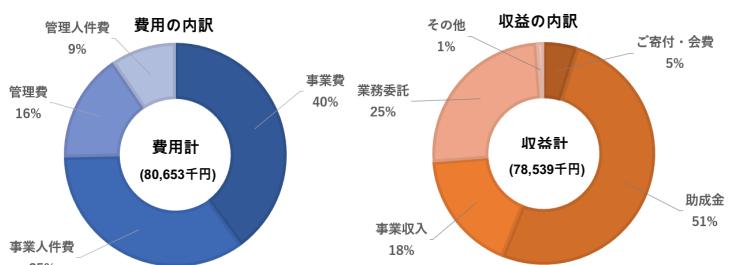
収支報告

2021年9月1日から2022年8月31日まで

(単位:円)

科目	金額
1. 受取会費 正会員受取会費 受取会費	1,415,203
2. 受取寄附金	2,376,152
3. 受取助成金等 受取民間助成金	40,227,072
4. 事業収益 売上高	11,098,159
	家賃収入
	その他収入
	業務委託収入
5. その他収益 雑収入 受取利息	905,676
経常収益計	78,539,562
1. 事業費 (1)人件費	28,010,286
	(2)その他経費
	事業費計
2. 管理費 (1)人件費	7,678,875
	(2)その他経費
	管理費計
経常費用計	80,653,923
当期経常増減額	-2,114,361
固定資産売却損	192,877
経常外費用計	192,877
税引前当期正味財産増減額	-2,307,238
法人税、住民税及び事業税	132,000
当期正味財産増減額	-2,439,238
前期繰越正味財産額	-335,527
次期繰越正味財産額	-2,774,765

収支報告レビュー



◆収益の内訳

2021年度はコロナ禍により既存事業の収入が激減し苦しんだものの、休眠預金や観光庁に関する大型の助成金に加え、岩手県4自治体、国内企業2社、さらにデンマークの教育機関など、幅広い連携を通じて業務委託収入が増加しました。結果、経常収益は78,539千円となり前年比約173%と大きく事業規模が拡大しました。

◆費用の内訳

一方で、「コミュニティビジネス」のような地域に根ざす新規事業の開発や新拠点となる「岩手町ユースセンター」の開設など未来への投資を行ったため、経常費用は80,653千円（前年比約139%）となり、次期繰越正味財産額はマイナスとなりました。

こうした中、ご寄付・会費は3,791千円（前年比284%）となり、皆様のご支援が活動の支えとなっております。素晴らしい日本の未来に向けて長く険しい道のりになりますが、今後も地域活性化を通して貢献していきます。どうぞ、温かく見守っていただけますと幸いです。

今年度理事紹介



岡田 勝太

副理事長

暮らし部 部長
Change Makers' College チーム長/コミュニティビジネス チーム長
一般社団法人アイビーナ 理事
陸前高田市子ども・子育て会議委員



薄井 大地

理事/事務局長

ソーシャルアクションカンパニー株式会社 (actcoin)
取締役COO
認定NPO法人e-Education 理事
情報経営イノベーション専門職大学 客員教員



吉田 勇佑

理事

株式会社CRAZY 執行役員



吳 哲煥

理事

NPO法人CRファクトリー 代表理事
一般社団法人幸せなコミュニティとつながり実践研究所
共同代表



大橋 衛

理事

デコボコベース株式会社
ディーキャリアITエキスパートマネージャー
(障害者支援)



加藤 遼

理事

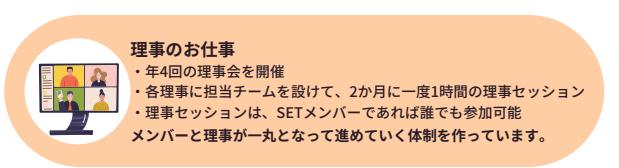
IDEAS FOR GOOD Business Design Lab. 所長
NPOサポートセンター理事
総務省 地域情報アドバイザー東北大大学 特任教授(客員)



石渡 博之

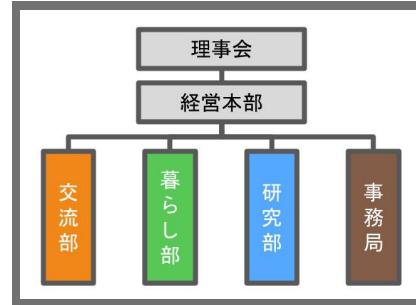
理事

交流部 部長



活動報告

交流部
暮らし部
研究部
事務局



SETは、理事会、経営本部の下に4つの事業部に分かれて事業を推進しています。また、各事業部内には通常で活動をする「チーム」（大規模）、「ユニット」（中規模）と期間限定で行われる「プロジェクト」が配置され、専門性を活かした活動を行っています。



『祝！新拠点誕生！ いわてまちユースセンター』

岩手町での活動も3年目。
ついに新たな拠点が誕生しました！
中高生が自分らしくいられる第三の居場所ユースセンター！9月にはプレオープンイベントを実施し、多くの地域の皆さんに祝福していただきました！
現在は、3月のグランドオープンに向けて活動中です。また、中高生向けのイベントや高校の「総合的な探究の時間」の授業も企画実施しています！



『国際連携に力を入れた一年！』

今年度から新たに「Pedagogコース」も加わり進化したCMCでは、広田で10名の学生を迎えました。デンマークから4名の学生を迎えて参加学生と交流を深めたり、デンマークで開催されたTeacher Summitに参加し、11カ国の参加者と、グローバル教育、持続可能な教育などについて議論しました。また、9月には「Japan Højskole Day 2022」に参加し、3日間広田町のキャンパスを開放して、サステナビリティに関するワークショップを行いました。



『コミュニティビジネスの世界観を深め広げる。』

チームが誕生してから1年半が経ち、チームとして大切にしたい取り組みが定まってきた。私たち一人一人が伝えたい世界観をみなさんに体感していただくために、地元企業主催のイベントへの出店、公民館や町の公共施設を活用したマルシェ、「コミュニティcafe彩葉」でのランチ提供、ワークショップ、地元食材を活用した商品開発などを実施し、多様な体験機会を生み出すことができました！



～活動成果～
7つの地域で
33団体と連携し
193名のSETメンバーと
658名の参加者と
2031名の町の方と
共に活動することができました！



『民泊本格再開へ！』

2020年の新型コロナウイルスの感染拡大以来、県外からの受入を見送っていた陸前高田民泊ですが、この度受入を本格的に再開しました。無事に134名の参加者が陸前高田の民泊家庭と交流することができました。受入家庭さんからは、「勇気を持って久しぶりの民泊を受け入れてみたら楽しかった、人が来ることは町が賑やかになっていいね。」という声をいただきました！



『社会人向け研修拡大中！』

「行政職員研修」として3自治体から4組が広田町に来て4～5日間の研修を行いました。研修期間に実施したアクションは各自治体に持ち帰り、事後アクションとして企画を進めています。「企業研修」は、2組実施しました。「1日1日新しい出会いや感情があって、ここまで気持ちが動かされる研修は初めて。来てよかったと素直に思う。」という声をいただきました。



『念願の現地入りから アクション実行に向けての挑戦！』

コロナ以降叶わなかった、念願の学生現地入りを行いました！地域の方との温かな交流や大自然との関わりから、地域への愛着と貢献意欲が増しています。現在、地域の方と関東の大学生だからこそアクション実行に向けて、地域の方との交流と対話を重ねています！



『SET掲載書籍 4冊刊行』

今年度は、SETの活動事例を『ウェルビーイング』『ソーシャル・イノベーションの理論と実践』『フォルケホイスコールのすすめ』『政策起業家が社会を変える』の計4冊に掲載していただきました。書籍にまとめてることで、自分たちの活動をより多くの方に知ってもらうことができ、様々な反響をいただきました。



『ハイブリッド型SET DAYを開催！』

2022年6月に、約2年ぶりに対面会場を設置してオンラインとの同時開催でSET DAYを実施しました。SETメンバー53名が出席し、事業の現状を共有して今後のSETの活動やコミュニティへの期待を描きました。仲間と想いを共有でき、SETの熱を体感できる素敵な場となりました。



『マンスリーサポーター70名突破！ 寄付企業とのコラボ企画も実施！』

2021年7月から開始したマンスリーサポーター制度が、11月時点71名となりました！2022年3月には、クラウドファンディングを実施し、100万円を超える寄付をいただきました。また、同年11月には、寄付企業様とのコラボ企画を岩手町、広田町の2拠点で実施し、寄付が持つ多様な可能性を感じることができました。

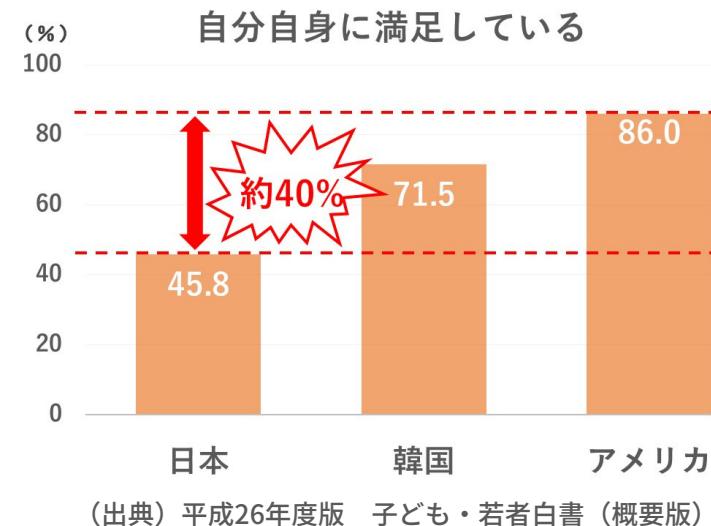


SETが作り出した ソーシャルインパクト

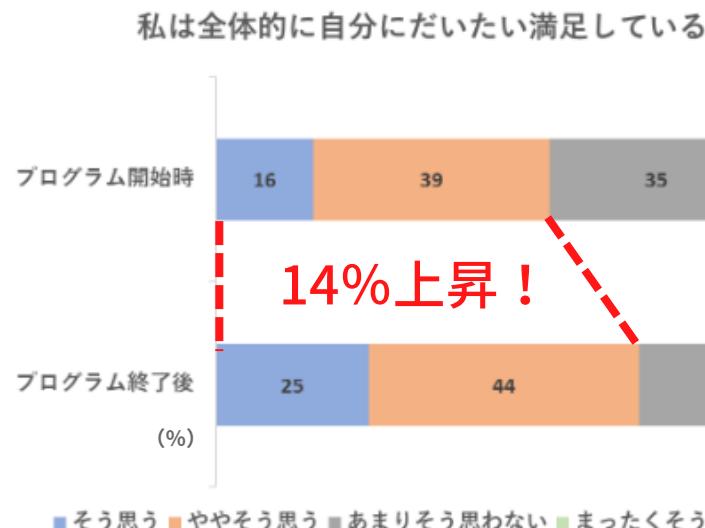
若者の自己肯定感の向上

日本の若者特有の課題にアプローチ

自分自身をどのように評価し、どれほどポジティブな姿勢に立って見ているのかについての自己評価です。日本の若者は、諸外国の若者と比べて自分を肯定的に評価している人の割合が低い傾向にあります。



SETでの取り組み事例



2021年度のCMSPといわプロ（中高生キャリア教育プログラム）の大学生スタッフの自己肯定感を測定したところ、プログラム開始前後で自己肯定感が14%上昇していることが分かりました。



なぜ自己肯定感が向上したのか？

日本の若者の自己肯定感の低さは、自分は役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっています。共同研究を実施していただいた上智大学の川西諭教授によると、「SETでの活動を通して人やチームの役に立つ実感が得られたことで自己有用感が上昇し、それとともに自己肯定感も上昇した。」と考えられます。



アンケート
項目の詳細
より詳しい
考察
報告書の詳細は
こちらから

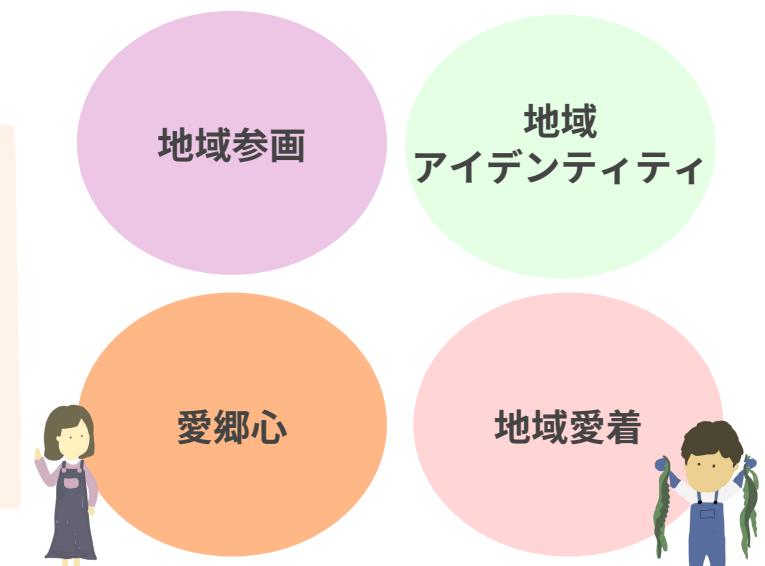
シビックプライドの向上

シビックプライドとは？

シビックプライドは「都市に対する市民の誇り」と定義されています。「自分自身が関わって地域をよくしていこうとする、当事者意識に基づく自負心」が含まれる概念で、様々な地方自治体で注目されている指標です。

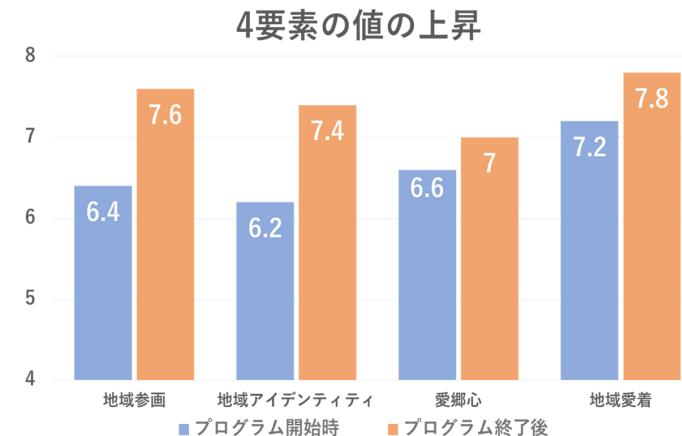
シビックプライドの4要素

SETでは、「地域参画」「地域アイデンティティ（関係人口アイデンティティ）」「忠誠的愛郷心」「地域愛着」の4つの要素からなる19項目の質問によって活動地域におけるプライドを測定する取り組みをしています。



なぜシビックプライドが向上したのか？

2021年度のCMSPと岩プロの大学生スタッフを対象にアンケート調査を実施。4要素でシビックプライドの向上が見られました。シビックプライドが高まった要因としては、プログラム参加によって地域を訪れ、仲間や地域の人との思い出ができるこことや、自分たちの活動への反応が返ってくることが関連していると考えられます。



まとめ

今回の調査結果をもとに言えることは、SETの活動は、日本全体の課題である若者の自己肯定感の向上に寄与するとともに、地方衰退の課題を解決したいと思う人材の育成を行なっているということがわかりました。SETでは今後も若者と地方をつなげることで、問題の同時解決に貢献していきたいと思います！

アンケート
項目の詳細
より詳しい
考察
報告書の詳細は
こちらから



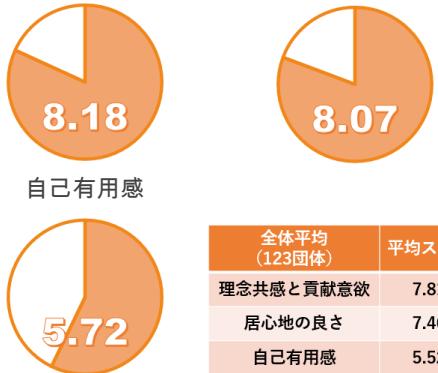
SETの状態

コミュニティ・組織に対するメンバーの意識や個人のwell-beingなどを様々な角度から調査することによってSETの状態を数値化し、より良い組織づくり・事業づくりに役立てることを目的に様々な調査を実施しました。ここでは、その中の二つの調査結果をお伝えします。

コミュニティキャピタル診断

SETでは、毎年一回コミュニティの健康診断としてNPO法人CRファクトリーが開発した「コミュニティキャピタル診断」を実施しています。コミュニティキャピタルとは、団体の中にある目に見えない資産を可視化したものであり、「理念共感と貢献意欲」「居心地の良さ」「自己有用感」の3要素で定義されます。今回は、そんな診断結果を見ていきながら、SETメンバーにはどんな人が集まっているのか紹介します。

理念共感と貢献意欲 居心地の良さ



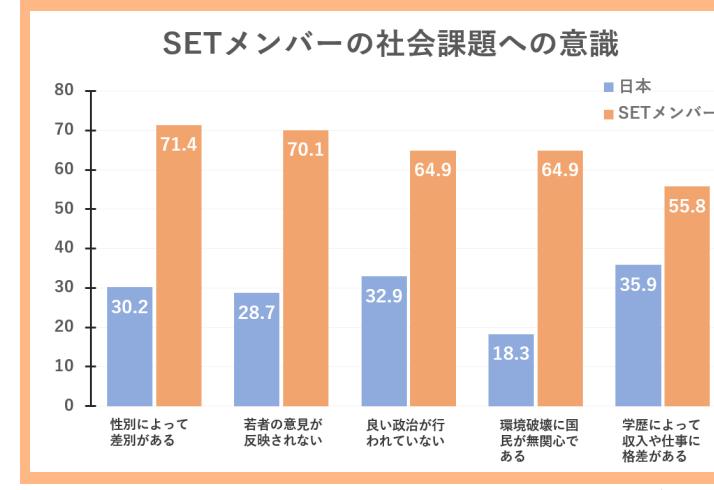
123団体のコミュニティ作りに関心がある団体の中で、全項目で平均以上の高い数値を記録することができます。これは、コミュニティマネージメントチームの施策による効果が大きいです。理念に強く共感したメンバーが、自分自身のやりたいことを自由に発信し、事業とつなげていくことを目的としたSETタレント名鑑。入って間もないメンバーも含め居心地の良さを感じてもらうための様々なコミュニティ企画を実施することで、モチベーションを高く保ちながら活動をすることができています。

SET全体調査（研究部独自取得）

研究部が独自に作成したSETメンバー向けのアンケートを実施。社会貢献への意欲や、幸福度の調査など様々な指標を測定しました。

今回は、社会貢献に関する、メンバーの価値観を可視化して皆様へお見せします。

SETメンバーが感じている社会課題



参照：令和元年版 子供・若者白書（内閣府）

左のデータを見ると、SETメンバーの社会課題への意識は日本の平均値と比較して、非常に高いことがわかります。これは、多様な価値観を持つメンバーが、課題先進地域である地方で活動する中で感じたことを自由に表現することで、お互いの関心を持った社会課題が共有され、理解を深められていることが要因と考えられます。また、右のデータからは、団体外の社会貢献活動への参加回数も日本の平均値と比較して高くなっていることから、考え方を持つだけではなく、行動にまで移すことができるメンバーが多く所属していることがわかります。

SETメンバーは社会課題への意識が高く
活動を通して、より社会に貢献する人材になっている！

報告書の詳細は
こちらから

SETに関わる若者たちの声



CMC卒業生

Bjartur(ビヤストゥー)さま

コメントを寄せる機会をもらえて光栄です。
「旅は、心を豊かにする稀有なもの一つです。」
帰国してからは、日本の価値観を日々の生活に取り入れるようになり、人生観が広がりました。
私は、いつでもSETの未来を想うパートナーです。
もし助けを必要とするなら、どんなに小さくともその一部になりたいと思います。



CMP参加者
塚田大登さま

プログラムに参加する以前は自分がやりたいことも、周りの目を気にしてできませんでした。
しかしスタッフの皆さんのお優しさや居心地がいい雰囲気がおかげで自分の「やりたい」「なりたい」を大切にでき、毎日楽しく生きられるようになりました！



いわぶろ運営メンバー（大学生）

川島 レラ

目の前の高校生の「やりたい」をサポートする内に、高校生の目が輝き、地域の方が応援してくれ、岩手町が少し輝き始めたことを実感しました。いつしか自分の「やりたい」も湧き出た、そんな一年でした！



いわぶろ卒業生
岩崎 尚旺さま

初めは自分の経験のために始めた活動でしたが、次第に周囲の人や地域のためにになっていることに気づきました。いわぶろの活動を通して多くの関わりや繋がりを作ることができました。



SET大学生メンバー

菅野 瞳子

SETは私にとって、幸せを感じることがたくさんある場所です。町の方やSETのメンバーなど、一人ひとりの考え方や価値観を共有しあいながら、共に今を歩み、未来を描いていく過程に幸せだと感じる1年でした。



